

## 令和2年度 2学期終業式 式辞

令和2年12月24日

皆さん、おはようございます。

最初に、この2学期中の、皆さんの活躍を紹介します。

まず、「数学・理科甲子園2020」において、本校のチーム「SSHの申し子」が見事優勝しました。メンバーは、大戸由己君・佐々木優君・西原潔君・平塚秀樹君・山口颯太君・山本武君の6人で、全員2年9組です。来年3月開催予定の「第10回科学の甲子園全国大会」に兵庫県代表として出場します。3年ぶりの全国大会出場決定です。

次に、「全国高等学校文芸コンクール」の短歌部門において、3年5組の松井静香さんが、入選を果たしました。

もう一つ、「日経ウーマノミクスフォーラム2020バーチャルシンポジウム」という大会において、3年6組の上中美羽さんの「高分子化合物による水質浄化」と、3年9組の原菜々瀬さんの「竹が生ごみを減らす！？～竹パウダーを用いた有機物分解のプロセス」が、ともに予選を通過し本選に出場しました。上中さんの発表は、三洋化成工業特別賞を受賞しました。

運動部・文化部各部も、それぞれの大会で健闘しました。さまざまな制約のある中で、本当によく頑張ったと思います。

さて、あと一週間ほどで今年も終わります。今年は、現代人が経験したことのない、新たな災いと闘った一年、コロナで始まりコロナで終わった1年でありました。

学校生活も大きな影響を受けました。はがゆいことが沢山ありました。今日も、放送での終業式です。今年度になって、我が校の校歌を、一度も歌えてないことを、とても悔しく感じています。誰もが、極めて特異で困難な一年を過ごしました。でも、こんな状況の中で、こんな状況の中だから、先生方や自治会・放送委員会をはじめとした生徒の皆さんは、普段とは異なる新たな様々な取組をしてくれました。このことを、とてもうれしく思います。

ところで、皆さんは、稲盛和夫という実業家を知っていますか。京セラと、KDDIの創業者であり、日本航空の再建を託され、無報酬で日本航空会長を務めた人として有名です。彼はこういうことを言っています。

「長い人生の旅路では、失望や困難、試練の 때가、何度もある。しかし、それは、自分の夢の実現をめざし、すべての力を奮い起こして誠実に努力をする、またとない機会でもある。天は誠実な努力とひたむきな決意を、決して無視はしない。」と。

君たち神高生には底力がある、と僕はよく話してきました。しかし、当然ですが、何もしないで身に着くものではありません。何にでも、一生懸命取り組んできたからこそ身に着いているのです。

そして、この困難な時は、その底力をさらに大きく養うまたとない機会なのです。誰にでもできる当たり前のことを、徹底してやり続ける。平凡なことを非凡に努めようとする

です。

「天は誠実な努力とひたむきな決意を、決して無視はしない。」味わうべき言葉だと思います。

さて、来たるべき年はどのような年になるのでしょうか。稲盛和夫さんは、こんなことも言っています。

「どんなときでも、未来は明るくて、さんさんと太陽が光り輝いて、花畑になっていると思いなさい。」

世の中は、まだまだ先行きが見通せない状況が続きます。しかし、一人一人にとっての来年はイメージができるでしょう。

三年生は、受験を間近に控え、不安も高まる頃だろうと思います。しかし、ひたすら「誠実な努力とひたむきな決意」を積み上げていけば、「天は決して無視はしません。」

皆さん一人ひとりにとって、来年が、「花」のいっぱい咲く明るい年になることを願って、終業式の式辞とします。